

## 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	小林 勉		
NAME	KOBAYASHI TSUTOMU		

## 1. 研究課題

（和文）ジュニアスポーツ期におけるアスリートの運動体験に関する研究

（英文）Current Status of Coaching in Club Activities at Youth age

## 2. 研究期間

2年間（2018年度から2019年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

近年、子どものスポーツスキルが上手くなるコツを紹介するハウツー本やジュニアスポーツに関する悩み相談に応えるような本、指導者の目線から現場での問題を手厳しく批判しようとする本など、ジュニアスポーツに関する本が続々と登場してきている。小学生の約55%がスポーツ系の習い事をする現在、看過できない問題は、その世界ではじつに様々な問題が起こっていることである。その範囲は「子ども-子ども」「子ども-指導者」「指導者-保護者」などの間のみならず、「保護者-保護者」の間にまで及び、楽しいはずのスポーツ活動が、それがもとで気疲れするような事態があちこちで生じ始めている。本研究はそうした問題の実態をジュニアアスリートの視点から捉え、誰もが夢見るプロスポーツ選手のリアルな現実の動向についても視野に入れながら研究を展開した。

東京五輪を控え、今後、急速に問題化するであろう「ジュニアスポーツ狂想曲」とも言える、一般にはあまり知られていないコーチング現場の実態について基礎的データを蓄積できたことは、各レベルでのスポーツ政策を検討する上で貴重なデータを提供できうるものと考えられる。

(英文)

Junior sport is a regular weekend activity for many kids in Japan. Regardless of an individual kid's introduction to sport activities, many will be required to prematurely play from coaches and guardians on a field. This study suggests junior sports programs that encourage enjoyable, safe, inclusive, and challenging experiences for children will support better and longer-lasting participation outcomes.